90-10-09291

慶應義塾大学ビジネス・スクール

キャッシュ・フローと利益の質

－アーバンコーポレイションおよびその他事例から－

キャッシュ・フロー計算書とは？

キャッシュ・フロー計算書（C/S）とは、わが国で2000年3月期決算より、上場企業に作成が義務付けられた財務諸表のひとつで、会計期間における資金（現金及び現金同等物）の増減、すなわち、収入と支出（キャッシュ・フロー）を営業活動・投資活動・財務活動ごとに区分して表示するものである。現在では、主要な先進国の企業会計制度において、貸借対照表（B/S）と損益計算書（P/L）に次ぐ第3の財務諸表として位置付けられている。

キャッシュ・フロー計算書を分析することで、貸借対照表や損益計算書から読み取れない「資金の流れ」を知ることができる。まず、貸借対照表は「一定時点における財政状態（資産･負債･純資産)」というストック情報を提供するので、ある時点で保有している現金残高を把握できる。一方、損益計算書は､｢会計期間における利益（収益と費用の差)」というフロー情報を提供する。しかし、これら2つの財務諸表から、いったいどれだけのキャッシュを支出し、回収したのかを把握することはできない。なぜならば、収益と費用は「発生主義」によって認識されるため、客観的なキャッシュの出入りという事実を必ずしも伴わない。たとえば、掛売りや掛買いなどの信用取引をした場合、収益や費用は計上されるが、キャッシュは動いていない。さらに、借り入れをしたり、貸し付けをしたりといった損益計算書に反映されないが、キャッシュが増減する取引も存在する。

では、さっそくキャッシュ・フロー計算書（間接法）の実物を見てみよう（図1参照)。冒頭を見てみると、「自平成○○年○月○日　至平成○○年○月○日」となっていることから、損益計算書と同じく、会計期間におけるキャッシュの動きを示していることがわかる。キャッシュ・

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 村上裕太郎がクラス討議の資料として作成した。
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文はhttp://www.kbs.keio.ac.jp/へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。
Copyright© 村上裕太郎（2010年9月作成）